

川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その3

- 1) 川崎医科大学衛生学
- 2) 川崎医科大学肝胆膵内科学
- 3) 川崎医科大学心臓血管外科学
- 4) 川崎医科大学麻酔・集中治療医学 1
- 5) 川崎医科大学麻酔・集中治療医学 2
- 6) 川崎医科大学脊椎・災害整形外科
- 7) 川崎医科大学小児科学
- 8) 川崎医科大学語学
- 9) 川崎医科大学解剖学
- 10) 川崎医科大学学務課庶務係
- 11) 川崎医科大学学長

大槻剛巳¹⁾, 日野啓輔²⁾, 種本和雄³⁾, 藤田喜久⁴⁾, 中塚秀輝⁵⁾, 長谷川徹⁶⁾,
中野貴司⁷⁾, 田中孝明⁷⁾, 芝田 敬⁸⁾, 松崎秀紀¹⁾, 李順姫¹⁾, 武井直子¹⁾,
西村泰光¹⁾, 清蔭恵美⁹⁾, 樋田一徳⁹⁾, 佐々木和信⁹⁾, 川西礼美¹⁰⁾, 福永仁夫¹¹⁾

(平成23年9月30日受理)

External activities, such as university cooperation, industry-university-government cooperation
and others in Kawasaki Medical School : Part 3

Takemi OTSUKI¹⁾, Keisuke HINO²⁾, Kazuo TANEMOTO³⁾, Yoshihisa FUJITA⁴⁾,
Hideki NAKATSUKA⁵⁾, Toru HASEGAWA⁶⁾, Takashi NAKANO⁷⁾, Takaaki TANAKA⁷⁾,
Kei SHIBATA⁸⁾, Hidenori MATSUZAKI¹⁾, Suni LEE¹⁾, Naoko KUMAGAI-TAKEI¹⁾,
Yasumitsu NISHIMURA¹⁾, Emi KIYOKAGE⁹⁾, Kazunori TOIDA⁹⁾, Kazunobu SASAKI⁹⁾,
Ayami KAWANISHI¹⁰⁾, Masao FUKUNAGA¹¹⁾

- 1) Department of Hygiene, Kawasaki Medical School
 - 2) Department of Hepatology and Pancreatology, Kawasaki Medical School
 - 3) Department of Cardiovascular Surgery, Kawasaki Medical School
 - 4) Department of Anesthesiology & Intensive Care Medicine 1, Kawasaki Medical School
 - 5) Department of Anesthesiology & Intensive Care Medicine 2, Kawasaki Medical School
 - 6) Department of Orthopaedic Surgery, Kawasaki Medical School
 - 7) Department of Pediatrics, Kawasaki Medical School
 - 8) Department of Foreign Language (English), Kawasaki Medical School
 - 9) Department of Anatomy, Kawasaki Medical School
 - 10) Division of General Affairs, Department of Academic Affairs, Kawasaki Medical School
 - 11) Dean, Kawasaki Medical School
- (Received on September 30, 2011)

抄 録

川崎医科大学では、大学連携・産学官連携を始め、多くの地域に根差した対外活動に参画している。私立単科医科大学という独自性を踏まえつつ、岡山県あるいは倉敷市に存する高等教育機関として種々の連携を行っている状況にある。本稿では、その中で大学あるいは産学官連携事業以外の「岡山県企業誘致推進協議会」、「岡山発国際貢献推進協議会」とともに、本学の国際交流の中で、筆頭著者が関与している「医学教育振興財団を介した国際医学研修」および「国際医学生連盟を介した医学生交流」について紹介する。さらにこういった全体の活動について総括する。

キーワード：岡山県企業誘致推進協議会，岡山発国際貢献推進協議会，医学教育振興財団，国際医学生連盟

Abstract

Kawasaki Medical School is taking part in external activities which originated in many areas including university cooperation, industry-academia-government cooperation, and others. A variety of cooperative initiatives are performed as an institution of higher education located in Okayama Prefecture or Kurashiki city, being based on the uniqueness and originality of a private, single medical faculty. In this article, our external activities other than those pertaining to "University" or "Government-industry-academia" cooperation, such as "Okayama Company Invitation Promotion Meeting" and "The international-contributions promotion conference from Okayama", in which our medical school is a member, are discussed. Additionally, other activities of our medical school related to international exchange programs of medical students, such as "Elective Placements between medical universities between UK and Japan" conducted by the "Japan Medical Education Foundation" and the "Short-term Medical Studying Abroad Program" organized by "The International Federation of Medical Students' Associations (IFMSA)", are introduced in this article.

Key words: Okayama Company Invitation Promotion Meeting
The international-contributions promotion conference from Okayama
Japan Medical Education Foundation
The International Federation of Medical Students' Associations (IFMSA)

はじめに

川崎医科大学は中国四国地域では唯一の私立医科大学であり、既に設立後40年を経て、建学の理念である「人間をつくる 体をつくる 医学をきわめる」を達成するべく、1) 太陽と緑と草花のあふれる広大な自然環境、2) 清潔な近代的校舎・充実した教育施設・高度な研究設備・完備したスポーツ施設などの人為的環境、3) 全国的視野にわたって招いた、優秀な教職員組織の人間環境、そして4) お互いに友情を温め合い、協力精神を育て合うにふさわしい全寮制の生活環境の整備を行ってきている。この

建学の理念のもとに行われる近代的・実践的な特色ある教育は、医学教育界の高い評価を受けている¹⁾。

そのみならず、日本の中の高等教育機関として、あるいは岡山県もしくは倉敷市に存する大学として、種々の大学間の連携事業や産学官連携事業にも参画し、本学の有する教育・研究さらには診療に関連した人的あるいは知的な資材を広く国民や社会に向けて発信し、貢献することにも努めている。表1には、筆頭著者が大学役職として関連している対外活動の一覧を示す。

表1 川崎医科大学における大学連携，産学官連携等の対外活動の一覧

-
1. 大学連携事業
- 1) 大学コンソーシアム岡山
- 2) 「岡山オルガノン」事業
- 3) 倉敷市大学連携推進会議
2. 産学官連携事業
- 1) 国レベル
- (1) 産学官連携推進会議
- (2) 科学・技術フェスタ
- 2) 医学系大産学連携ネットワーク（東京医科歯科大学）
- 3) 岡山県
- (1) 岡山県産学官連携推進会議
- ①全体会議 ②産業戦略本部 ③産業戦略プロジェクト委員会
- (2) 岡山TLO
- (3) ものづくり重点4分野における産業クラスター形成に向けた取組
- ①精密生産技術 i) ミクロものづくり岡山推進協議会
- ②医療・福祉・健康 ii) メディカルテクノおかやま
- iii) ハートフルビジネスおかやま
- ③環境 i) 中四国環境ビジネスネット
- ④バイオ i) セルロース系バイオマス超微粉碎技術研究会
- ii) おかやまバイオマスプラスチック研究会
- iii) おかやま食料産業クラスター協議会
- (4) その他，研究会等組織
- ①おかやま生体信号研究会
- ②おかやまバイオアクティブ研究会
- ③水島工業地帯産学官懇談会
- (5) 岡山医用工学研究会
- (6) 岡山県企業誘致推進協議会
- (7) (2010年度) 岡山県中小企業応援センター
- (2011年度) 中小企業支援ネットワーク強化事業
3. その他岡山県・倉敷市の事業
- 1) 岡山発国際貢献推進協議会
- ①備中地域打ち合わせ会
- 2) 倉敷市国際交流協会
4. 民間の産学官連携推進事業
- 1) 国際バイオエキスポ
- 2) BioJapan 2011
-

別稿「その1」²⁾では，これらの中の主に大学連携事業について，その紹介，本学の活動状況さらにはそれぞれの組織の抱える課題などについても言及し，「その2」³⁾では，主に産学官連携事業について紹介した。本稿では，それら以外の対外的活動，あるいは，筆頭著者が対外

活動担当学長補佐職として関わった活動などについて報告する。これらの中で，いくつかの組織団体などでは，イベントなどに参加するだけのこともあるが，川崎医科大学として会員となっており，高等教育機関のひとつとして参入をしているものである。われわれが日常従事して

いる教育, 診療そして医科学研究と趣を異にするコンセプトのものも多いが, 私立医科単科の大学として, 医学医療教育に専心し, 本学学生が十分な知識と技能を取得した上で, 医師国家試験に合格し, 将来にわたって良医たらんことの礎を構築することを最重要課題として取り組むことが, 本来如何様にもずれてはいけない本分であるが, 観点を考えてみると岡山県, あるいは倉敷市に存する大学という高等教育機関であることの地域に対する責務, もちろん最先端医療の提供自体が地域貢献であることは言うまでもないのだが, それ以外にやはり知の結集と科学技術に寄り添ったシーズを多方面にわたって有しているのが大学組織という認識であり, その有効な利用は地域にとっても種々の産業発展や, 地域の知力の向上などにも密接に関与するものと捉えられるのであろう。その場合に, 短絡的な本学学生や教職員の利益や恩恵ばかりの面でなく, 大学組織としての自覚の中で対応しないとならない事例などもあってしかるべきとも察せられる。

こういった観点も含めて, いくつかの組織団体を紹介する。

・岡山県内の組織

表1の中で, 大学連携あるいは産学官連携とイノベーション創出という観点で関与が深いも

のについては, 別稿「その1」²⁾, 「その2」³⁾で紹介した。それ以外にも県内組織に会員として参加しており, 総会やイベントなどに参加依頼が届くものがある。こういった組織を紹介した上で, 参加状況の報告を記載する。

1) 岡山県企業誘致推進協議会

これは県内の経済団体, 産業振興団体, 金融機関, 学術研究機関および行政機関など22団体が会員となって構成され, 石井岡山県知事が名誉会長を務める協議会である⁴⁾。実際の活動は, 各会員からの推薦により企業誘致アドバイザーを委嘱し, 取引先は共同研究などのつながりのある関係者への岡山県の立地環境の優位性などのアピールをすること(実際に筆頭著者も, 会員である川崎医科大学からの推薦ということで委嘱を受けている), ものづくりや企業立地に関連するセミナーの開催, 情報の収集あるいはメールマガジンの発行などである。

例年, 6月に総会が開催され, 筆頭著者が担当してからは, いずれも県庁3階奥の大会議室でマスメディア取材されている中で開催され, 翌日には新聞記事として紹介がある(図1)。大学等学術研究機関の会員は岡山大学, 岡山県立大学, 岡山理科大学, 倉敷芸術科学大学, 津山工業高等専門学校と本学であり, 同時に経済団体(岡山県経済団体連絡協議会, 岡山県商工会議所連合会, 岡山経済同友会など)や産業振



図1 2009年度岡山県企業誘致推進協議会総会を紹介する山陽新聞記事。はからずも最手前の背中は筆頭著者である。

興団体、金融機関として岡山政策投資銀行岡山事務所、日本政策金融公庫岡山支店、商工組合中央金庫岡山支店、岡山県銀行協会、さらには行政機関も岡山県以外に、岡山県市長会と町村会が会員となっている。前述のように石井正弘知事は名誉会長であり、現在会長は岡山経済同友会の代表幹事を務められているナカシマホールディングス株式会社、中島基善代表取締役社長が任に就かれている。

2011年度の総会では、成長が期待できる次世代自動車や新エネルギー関連分野などにターゲットを絞り、岡山県へ立地することのメリットをアピールしながら、産学官が連携して企業誘致活動を戦略的に展開する事業計画などが決められた⁴⁾。それまで参加した総会に比して、今年度（2011年5月16日）は種々の団体会員からの出席者も変化があったのか、比較的自由闊達な意見交換が行われ、県としての企業誘致のパンフレットの詳細についての意見や、知事がトップセールスとして実施するのは東京と関西ではどのように違うかなどの検討なども知事から事務方に発せられる場面などもあった。さらに東日本大震災と原発事故に伴う放射能漏れを受けて、太陽光発電のメガフォーラムの話題や、（今年は久しぶりに台風の直撃を受けたものの）岡山県という比較的天災が少ない立地などの優位性についてのアピールの方策などが検討されていた。

本学が実質的に企業誘致に対してどこまでの貢献が出来るかどうかは不詳な部分も多いが、本学が中四国地域唯一の私立医科大学であることによって、岡山県は中四国地域の他県と比較して、医学医療に関連する研究シーズの多さや需要の多さを、その特徴として捉えられていることは、この企業誘致推進協議会のみならず、産業戦略推進会議などでも何度も意見として述べられる事実である。もちろん岡山大学医学部では、別稿で示したOMIC活動⁵⁾をはじめ、

種々の産学官連携の展示会などでも医歯薬研究科組織としての出展なども多く、相当に精力を注いでいることは、明白であるが、やはり本学がここに立地していること自体が、やはり岡山県の産業振興に一定の方向性を打ち出していることを、本学としても十分自覚しなければならない印象を抱いている。

2) 中小企業支援ネットワーク強化事業（2011年度）⁶⁾

この組織の説明の前に、まず2010年度に、これまで「地域力連携拠点事業」⁷⁾として経済産業省・中小企業庁が採択した金融機関や商工会議所等の、半ば『公』の機関から無料でコンサルタントを派遣してもらい、中小零細企業が解決したい『悩み』の解消に向け、コンサルティングを行うという制度が、2009年度の事業仕分け⁸⁾で廃止されたのを受けて、「中小企業応援センター 産業振興ネットワーク」事業として発足したものがあった⁹⁾。県内でのセンター数を減少させ、かつ岡山県であれば、財団法人岡山県産業振興財団を代表法人とし、PFI岡山インキュベート株式会社（岡山リサーチパークインキュベーションセンター）、玉野産業振興公社、中国銀行ならびに大学等研究機関代表として岡山理科大学を有する加計学園の5法人がコンソーシアムを形成して、中小企業応援センターにコーディネータを配置し、中小企業の新事業展開、創業・再チャレンジ、事業承継、ものづくり、さらに新たな経営手法への取組などについて、専門家派遣、セミナーやビジネスマッチングの開催、さらに無料相談などを実施する組織であったが、これもまた2010年度の事業仕分けで廃止の判定となり、本項の事業は2011年度に新たに発足した組織と理解される。事業仕分け⁹⁾に伴って新聞報道などでも、省庁は廃止を受けても、いわゆる看板だけ架け替えて同様の事業を実施するように予算請求をすることがよく報じられたが、この組織の流れをみるとま

さにその報道は否めない印象もある。

いずれにしても, こういった経緯で2011年度は「中小企業支援ネットワーク強化事業」としてよみがえったものである。本学では2010年度の「中小企業応援センター」時に大学組織を代表して加計学園がコンソーシアムに参画されたことを受け, 大学への案内などもあって, 都合のつく際には, 会議イベント等に参加している。またコーディネータの方も, 事業展開の説明などで来学されることもあった。

実質的に, 先述の岡山県企業誘致推進協議会と同様に, 直接的に本学や川崎学園の事業内容自体が, 密接に関連することはないと想定されるが, これもすでに記載したように, 医学医療系ということによって, 本学への産業界からの視点が, 当事者である我々が考えているところと異なって, 注目されている事実がある。接点が非常に多いことにはならないと思うが, 外からの視点を鑑みるとともに, 別稿「その2」でも述べた本邦における産業活性化のひとつの道筋としての科学技術に立脚したグリーン・イノベーションそしてライフ・イノベーションの中で医学医療が関連する分野が多いことも認識し, 対外活動の中で本学の担うべき役割や立つべきポイントについて, 十分に思考することも必要なことではないかと考える。

3) 岡山発国際貢献推進協議会

この組織は2006年10月5日に設立された『県内のNGO, 経済団体, 企業, 農業団体, 国際関係団体, 教育機関, メディア, 行政等間の連携を強化, 協働事業の創出及び実施の実現を図り, 国際貢献活動に対する理解の促進や活動のすそ野を広げることにより, 国際貢献活動の一層の推進に寄与することを目的と』するものである。役割・機能として『国際貢献活動に関係する団体等の連携及び調整, 国際貢献意識の醸成及び啓発, 国際貢献活動の創出, およびその他この会の目的を達成するために必要な事

業』を挙げている¹⁰⁾。

例年6月に総会が催され, 年度ごとに特別講師の講演なども催されている。2009年度は国連開発計画(UNDP)親善大使で女優の紺野美紗子氏による講演¹¹⁾, 2010年度は国際貢献を考える映画上映会「ウォーダンス/響け僕らの鼓動」を開催¹²⁾, 2011年度はマザーハウス代表取締役兼デザイナー山口絵理子氏による『バングラデシュにおいて起業を決意した頃からの歩み, 途上国の人に行えることが必ずあるとの信念, 困難に直面しても諦めずできるまで頑張り通してビジネスを軌道に乗せた体験』を語る講演¹³⁾などが行われた。筆頭著者は2010年度の総会には参加できたが, この「ウォー・ダンス」は『反政府武装組織による虐殺や児童拉致が相次いだ, アフリカ・ウガンダ北部の子どもたちが, 逆境に負けずに全国ダンス大会に挑む姿を追うドキュメンタリー』映画で, 『戦争で両親を殺され家を奪われたウガンダの子どもたちが, 仲間と一緒に奏でる音楽と伝統舞踊を通して笑顔と希望を取り戻すまでを克明に映し, 2007年度サンダンス映画祭でドキュメンタリー部門監督賞を受賞。上位入賞を目指して, ひたむきに努力する子どもたちの姿が感動を呼ぶ』作品であった¹⁴⁾。また筆者が参加した国際貢献講演会¹⁵⁾では, 国際開発高等教育機構(FASID)理事長, 元国連協力事業団(JICA)総裁の川上隆朗氏の講演や, 県内の岡山ロータリークラブのラオスでの家畜銀行の取組や, 高梁ロータリークラブのカンボジアでの教育支援活動などの事例報告なども紹介されていた¹⁵⁻¹⁷⁾。

2011年度は, 創立5周年を記念して「岡山発国際貢献推進協議会5周年記念イベント」が10月16日に開催され, 本学では小児科(中野, 田中)によるタイ王国における国際医療貢献を中心に, 後述する医学研修に関連した活動をブース出展し紹介した¹⁸⁾。本協議会の構成団体にはいくつかの大学組織も入っているが, 新見市の

公設国際貢献大学校以外には、岡大のボランティア同好会たわしや岡大アフリカ留学生会の出展があるのみであったので、医療あるいは医学研修の範疇での国際貢献としての活動の紹介が出来たことは意義があったと感じている(図2)。



図2 2011年10月16日、岡山発国際貢献推進協議会創立5周年記念事業における川崎医科大学出展ブースの様子ならびに会場の風景。

また、2009年3月には本協議会の中の備中地域に限定した「備中地域打ち合わせ会」¹⁹⁾が催された。学校法人高梁学園(2010年4月より学校法人順正学園、県内組織は吉備国際大学、吉備国際短期大学(旧順正短期大学)、順正高等看護専門学校)によるボランティアセンターの活動、公設国際貢献大学校の活動紹介、後述の倉敷市国際交流協会の「国際協力・交流フェアinくらしき」の紹介とともに、本学でも医療従事者の国際交流の概要(設立当初のミネソタ大学との交流、中華人民共和国北京にある首都医科大学

との交流、研修医の海外臨床研修制度、ESS部活動に伴う国際医学生連盟での留学生受入れ(後述)とともに、著者の教室で受け入れた政府開発援助(Official Development Assistance; ODA)を介した中国瀋陽、中国医科大学の研修生の受入²⁰⁾と、NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会(理事長：岡山大学名誉教授、元病理学教授 岡田茂先生²¹⁾)を介したミャンマーからの研修生受入²²⁻²⁴⁾を報告した。

4) 倉敷市国際交流協会

これは『倉敷市の国際交流・協力・貢献を総合的に推進するため市民参加によって設立された団体』である²⁵⁾。姉妹・友好都市などとの海外交流事業として姉妹都市訪問青少年生活体験団派遣事業、学生親善使節受入事業、市民訪問団派遣と受入事業などを、国内交流事業として倉敷国際ふれあい広場、倉敷イングリッシュキャンプ、情報提供事業 - What's upの発行などを、そして国際協力・貢献事業として国際協力・貢献講演会および研修会開催や留学生等への中古自転車交付などを実施している団体である。

毎年6月に行われる総会には本学にも案内が届くこともあり、日程時間の都合がついた2010年度の総会には参加してきた²⁶⁾。伊東倉敷市長の挨拶やスリランカ生まれで、経済学/国際学博士、羽衣国際大学准教授であるJ.A.T.D.にしゃんた(J.A.T.D. Nishantha)氏²⁷⁾による講演もあった。同氏は、落語家、タレント、京都府名誉友好大使、NPO法人多民族共生人権教育センター理事、講演講師としても活躍中で、講演の後半は、お得意の落語のご披露もあった。

その他の担当する対外活動領域について別稿の「その1」、「その2」により大学連携事業、産学官連携事業を紹介し、本編ではその他会員などとして参画している組織団体と本学の関与の実状の報告をしてきた。

本編を含めたこれら3編の著述では、筆頭著

者が学長補佐職として担当している対外活動についての報告としているため、川崎医科大学として実際に行っているものの、担当外部分については、報告するだけの詳細な経緯と現状の把握が十分ではないため、取り扱っていない。

たとえば、英国Oxford大学Green Templeton Collegeとの国際交流や、研修医の短期留学による海外医学研修、附属病院における県内や倉敷市内の医療施設との連携協議会などは割愛させていただいている。

その他事項として、本項では、2点を紹介したい。一つは医学教育振興財団を介した本学医学生の英国研修留学と2011年度に初めて実現した英国医学生の受入れについて、そして、もう一つは、本学ESSクラブが参画している国際医学生連盟を介した本学学生の国際医学研修と本学基礎医学系教室への海外医学生の受入れについてである。

1) 医学教育振興財団を介した国際医学研修

この財団は『日本ならびに諸外国の医学教育(卒後の臨床研修を含む)の方向と実情とに関する調査研究を行い、その成果を医学教育機関に提供するとともに、広く社会に公開するなど日本における医学教育の充実向上について寄与し、医学の振興と人類の福祉に貢献することを目的とする』組織であり、1979年に設立された²⁸⁾。事業としては以下が財団ホームページに掲載されている²⁸⁾。

- 1) 医学教育に関する調査、研究および資料の収集を行い、その成果を医学教育機関に提供する国内医科大学視察と討論の会。
- 2) 医学教育の方法の研究に対する助成を行う：医学教育研究助成・医学教育賞(懸田賞)授与。
- 3) 医学教育機関の教職員に対する研修を実施し、それを援助する：医学教育指導者フォーラム・医学・歯学教育指導者のためのワークショップ・日英医学教育会議

- 4) 医学教育資料の発行等、医学教育機関から委託された事業を行う：『J.M.E.F.』刊行・『国内医科大学視察と討論の会報告書』刊行
- 5) その他：英国大学医学部での臨床実習のための短期留学・川崎学園グリーンカレッジフェローシップ・医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)に協力

この財団の設立前の準備期間から、川崎明徳理事長は非常に深くかかわってこられたと伺っており、現在も財団理事としてご活躍なさっている。また、その他項目にもあるように1987年より川崎学園グリーンカレッジフェローシップも事業として明示されている。

この中で、本学学生も『英国大学医学部での臨床実習のための短期留学』に応募し、『日本の大学の医学部学生を、英国の大学の医学部において4週間実習に従事させ、充実した臨床実習の機会を与える』という趣旨に基づいて、『平成24年度に医学部の最終学年に進学する学生であって、IELTS(International English Language Testing System)のAcademic Moduleを受験していること、ならびに実習先の定める臨床実習期間を終了していること(原則として約1年間)』という資格要件を満たした上で、これまで5名が短期留学を経験し、2012年春にも1名がNewcastle大学へ向かうことが内定している(表2)。

また2011年には、本学としては初めて本財団を介して英国Newcastle大学の医学生3名を受け入れた。財団の担当者の方の話によると、やはり英国医学生の留学希望先としては東京の大学であることが多く、都市としての国際的な知名度によるとのことである。

今回のNewcastle大学からの3名は、大学の位置するNewcastle upon Tyne市が、イングランド北東部に位置する都市であり、人口は約30万人、周辺都市のゲイツヘッドやサンダーランドを含めた100万人都市圏の中心で、北部イン

表2 医学教育振興財団を介した医学生の間際交流

川崎医科大学学生の英国留学		
時期（西暦年）	氏名	留学先
1997	福永明子	Southampton大学
2005	日野智子	Birmingham大学医学部一般診療部
2007	平 明日香	Oxford大学医学部
2009	坂崎さやか	Newcastle大学医学部
2010	権 淳英	Peninsula医科歯科大学
2012	井川京子	Newcastle大学医学部
英国医学生の川崎医科大学への受入れ		
2011	Mr. Sam Sheppard Mr. Thomas Fretwell Mr. Richard Gentle	Newcastle大学医学部

ランド最大の都市であるという地理的な背景と、計8週間の日本滞在の期間の中で、前半4週間は本学で、後半4週間は順天堂大学医学部で研修することによって、日本での地方都市郊外型の大学での医療実態と、東京という国際都市の中でのそれとを比較するという目的も合わせて本学を希望してくれたようであった。

この財団を介した留学生の受入れは基本的に臨床研修であり、本学では以前より受入れについては可能であることを提示しており、2年に1回程度の割合で、各教室にも時期的にいつ頃であれば（たとえば、月単位で）、そして教室当たり同時期に何人なら受入れ可能かという調査を実施させていただいてその情報も財団に届けていた。

実際、今回初めて受入れを実施するにあたっては、まず財団から希望者がいるという連絡が、実際に来日する約1年前に届き、徐々にではあるが、先方の医学生の希望専門科を第4希望くらいまでの提示を、簡単な略歴自己紹介とともに、届けてもらった。その後は、6～8か月前くらいから、主に電子メールにて、先方の学生と、本学担当者である筆頭著者の間で本学での受入れにあたっての略歴、学部長等の推薦状、成績証明書、健康診断書、予防接種記録、日本での臨床研修を希望する理由および研修希望の科と研修内容に関する意見などを改めて提出し

てもらいつつ、こちらでは来日期間に合わせての宿舎や学内での居室・デスクの問題などを事務レベルで検討していった。また、受入れ可能を財団に提示した段階より、以前から本学の中に受入れの判定委員会が形成されていたので、彼らからの書類をもとに、判定もお願いすることになった。実際に英国医学生からの希望専門科の連絡が入った段階で、研修希望の専門科の先生方に依頼し、期間などをご検討いただき、今回は、Mr. Thomas Fretwell君を肝胆膵内科学で4週間、Mr. Sam Sheppard君は2週毎で前半を麻酔・集中治療医学1および2で、後半を脊椎・災害整形外科で、そしてMr. Richard Gentle君は、前半2週間を心臓血管外科学で、後半2週間は麻酔・集中治療医学1および2で受け入れた。

川崎理事長のご助言を受けて、二子レジデンスに宿舎も準備でき、また学園内プリペイドカードも供与することによって、いわば食・住（好みかどうかは別として）については確保しての研修実施に至った。

研修開始直後の2011年6月16日には、本館8階レストラン「樺の木」で、川崎理事長のご参加もいただき歓迎会が行われた²⁹⁾。また、研修最後の7月7日には、第211回川崎医学会講演会として「Newcastle 大学からの医学研修生による川崎医大研修報告会」を開催した^{30,31)}。彼

らは、それぞれの子供時代やNewcastle大学の様子、そして本学での研修を希望した理由などから始まり、研修中の写真を交えつつ、真剣な研修と受入れ教室の教員たちとの交流や、週末などの本学ESS学生を中心とした医学生同士の交流の様子などを、3人がテーマに沿って入れ替わり立ち代わりながら、非常に素晴らしいプレゼンテーションを提示してくれた。また4週間の研修に対峙する姿勢なども十分に評価できるものであった。さらには、英国医学生はほとんど麻酔学などは学習しないなどの、日英の医学教育の差や、英国の医師は水曜日の午後は仕事をしない、などのエピソードも生の声で聴くことができ、双方にとって非常に有意義な研修期間を過ごすことができたと考えている(図3)。



図3 2011年に医学教育振興財団を介して医学研修に訪れた英国Newcastle大学医学生との交流会。上段は6月13日の歓迎会における川崎理事長のご挨拶の場面、下段は7月13日に川崎医学会講演会で研修報告を終えた後に、研修証明書を携えて福永学長と並ぶ左より、Mr. Thomas Fretwell君、Mr. Richard Gentle君およびMr. Sam Sheppard君

こういった受入れは、本学の国際交流の中でも、臨床各科、そして臨床助教、研修医から医学生も交えた交流として貴重な経験を残してくれるものでもあり、川崎理事長からも今後もこういった交流が継続できれば好ましいとのご発言を頂いた上で、彼らへの良好なホスピタリティの提供と、充実した研修を構築したのだが、叶うなら彼らから彼らの後輩たち、あるいは教官たちへ本学での研修をアピールしてもらい、今後ともこういった機会が設けられることを期待している。

2) 国際医学生連盟を介した医学生交流

本学ESSクラブは国際医学生連盟(the International Federation of Medical Students' Associations; IFMSA²⁾)に加盟している。これは1951年に設立されWMA(世界医師会)・WHO(世界保健機関)によって、公式に医学生を代表する国際フォーラムとして認められ、ECOSOC(国連経済社会理事会)の会員資格をもつ非営利・非政治の国連NGOである。2004年10月現在100カ国以上が加盟し、200万人以上の医学生を代表する団体で、本部をフランスの世界医師会内に置いている。IFMSAには公衆衛生、エイズと生殖医療、難民、医学教育、臨床交換留学、基礎交換留学の6つの常設委員会があり、さまざまなプロジェクト・ワークショップを世界各国で運営している組織である。この中の日本支部は、全国の医学部40校の団体会員および500人を超える個人会員によって構成され、各大学のご協力のもと、年間80名を、学生による運営で交換留学に送り出している。また、非営利・非政治の原則のもと、子供を通じた健康増進プロジェクト・禁煙啓発活動・放課後性教育プロジェクト・在日難民との交流会参加などの国内活動や、サマースクール・難民キャンプでのスタディーツアーなど、さまざまな国際活動も行っている組織となっている。

このIFMSAを介して、表3にあるように本

表3 国際医学生連盟（IFMSA）を介した本学ESSクラブの活動と海外医学生の受入れ

時期 (西暦年)	氏名	備考
2009	井川京子（当時M3）	エラスムス大学（オランダ）での短期研修。
2009	菊岡祐介（当時M4）	島根大学医学部，東京医科大学，奈良県立医科大学の学生とともにIFMSAの連携組織であるアジア医学生連絡協議会主催の国際会議において日本支部のMovie Presentationとして長島愛生園を題材としたハンセン病のビデオ作製にあたって，企画，編集，取材を主導的に実施。
2009	Mr. Johannes Sets	ウィーン大学医学部（オーストリア），衛生学にて受入れ。
2010	ESSメンバー	IFMSA-Japanの中のプロジェクトとしてAsia Community Health Project（ACHP）に参加。インドネシアスマトラ沖地震の被災地における公衆衛生に関する実態調査と改善策の提案に関するプロジェクトに参加。
2011	Mr. Maximillian Makus Kremer	インスブルック大学医学部（オーストリア），衛生学にて受入れ。
	Ms. Micaela Liliane Rea Tobler	ベルン大学医学生（スイス），解剖学にて受入れ。
	Mr. Michal Fiser	チャールズ大学医学生（チェコ），解剖学にて受入れ。
2012	奥井侑里（M4）	ドイツに留学予定。

学では，ESS学生の海外短期留学や，行事への参加とともに，海外の医学生の受入れを経験している。IFMSAを介して本学学生が海外留学を経験するにあたっては，原則的に，本学でも同時期に受け入れる（1対1で本学学生が留学する大学の医学生を受け入れるのではなく，その時期のIFMSAを介して日本への留学を希望する学生の中から受け入れるシステムである）ことが必要で，2008年時点でESSの顧問をしていた筆頭著者は，申込み締切が切迫していたこともあって，本学での研修受入れ科目（主に基礎医学を挙げることになっていると聞いていた）として所属する衛生学の研究内容（環境中物質の免疫影響，特に珪酸・アスベストについて）を紹介していた。

なお，表3に示すように，アジアでの活動などのように，ESS学生が医学生連絡競技会の中で活動する部分については，ほとんど大学としての関与は少なく，海外の医学生の研修受入れ

について，これまで後述のように解剖学や衛生学とその教員が関与することになる。ただし，学生諸子が，種々の活動を行っている点についても，教員が知るところになることも価値があると考え，表にはそういった内容も含めて提示しておく。

2009年に本学学生が留学希望を出したことによって，オーストリアの医学生を受け入れることになり，衛生学ではMr. Johannes Sets君を8月の4週間預かることになり，実験の見学や体験を中心に研修してもらった³³⁾。いわゆるイケメンの空手マン，そしてJapanese Animation Otaku（Otaku is a Japanese slang word which means someone who has a hobby that they spend more time, money, and effort on than normal people do. They know a lot about their hobby and things related to it; for example, an anime otaku might spend a lot of time watching anime, buy a lot of DVDs and other merchandise, learn

about the people who create anime (such as the people who draw it, or the people who make the voices of the characters), or create something (like music or drawings) about anime. Originally, otaku was a word to speak to someone from another family with respect. 英語版Wikipediaより)であったが, 基本的にナイスガイで, 研修も真摯に, かつ和やかに終えてくれた。

2011年には, 本学医学生の留学希望者は無かったのだが, 研修希望が3名あり, 相談の上, 2名を解剖学教室で, 1名を衛生学教室で受け入れた。衛生学教室で受け入れたMr. Maximillian Makus Kremer君は日本のビジュアル系バンドのオタクで, YouTubeを介して日本のポップカルチャーに馴染んでおり, 交流目的で行ったカラオケでも小林麻美の「雨音はショパンの調べ」を携帯画面にローマ字表記で歌詞を表出して日本語で唄っていた³⁴⁾。解剖学で受け入れたMr. Michal Fiser君もアニメオタクであり, 基本的には, やはり日本の文化などに親和性の高い学生が申し出る印象ではあるが, 同じく解剖学で受け入れたMs. Micaela Liliane Rea Tobler君は特段そういった事情はないものの, 本学を希望してくれたようであった。3人とも, 非常に熱心に研修してくれたし, また研修期間中は本

学ESS学生との交流や, 解剖学教室で研究体験をしている学生との交流なども深まり, 充実した医学研修を修めてくれたと考えている(図4)。

・考察

3編にわたる「川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について」の紹介の中で, 「その1」²⁾で大学連携活動, 「その2」³⁾で産学官連携活動を中心に著述し, 本編では筆頭著者が担当したその他の対外活動とともに, 担当分のみであるが医学教育レベルの国際交流についても記述した。国際交流については, Oxford大学との交換留学や, 研修医の海外研修など担当者が異なるため本稿には掲載できなかった活性度の高いより継続的な事業も展開されていることは, 既に周知のことと考えるし, またそれぞれの担当部門により詳細は紹介されている^{35,36)}。

医学教育, 中でも本学学生に対して医師国家試験合格という目標もさることながら, 将来にわたって良医たらんことの礎として知識と技能を授け, また自発的な向学心を支持, 支援するための教育とともに, 診療と研究を実施する中で, この3編に記した連携事業などへの参画に関しては, 本学の持てる力を十二分にこれらの



図4 本学ESSクラブの加盟する国際医学生連盟を介して来日し, 基礎医学研究の研修を行った海外留学生と受入れ教室。下段左は2009年のMr. Johannes Sets君と当時の衛生学教室一同, 上段は, 2011年のMs. Micaela Liliane Rea Tobler君とMr. Michal Fiser君ならびに受け入れた解剖学教室, そして下段中は同時期のMr. Maximillian Makus Kremer君と受け入れた衛生学教室一同。

事業の中で発揮するには、よほど十分な余力を有していないと相当の労力が必要なことも否めないところである。岡山県倉敷市に存する高等教育機関という形で捉えられる大学としての在り方あるいは地域貢献などは、ある面、「大学」という平均的な概念から派生するところがあり、特に私立医科単科である本学の種々の取組が、平均値としての大学の機能という面との間では、格差が生じているのも偽らざるところであろう。地域貢献という意味合いからでも、本学は本業である附属病院の診療自体が、地域の医療体制あるいは医療の進展という捉え方の中で、十分な貢献を提供していると自負するところでもある。

このような状況の中で、それでも医学領域に限定されてはいるが国際交流なども近年は活発になってきた印象もあるし、それは学生レベルにも十分浸透してきているようである。さらにこういった経験をした卒業生が、本学附属病院での研修を終えてそれぞれの教室で中核となって活動し始めている事実も喜ばしいことと考える。

本稿で掲げた内容については、今後とも機会と日程などの調整がつくのであれば、積極的に関与していきたいと考える。

．全体の総括

3編にわたった本学での対外活動について、それぞれの項目に関しては十分な対応が出来ていないところや、最適でない方向性の中で活動していると感じられる部分があるかも知れない。この3編では筆頭著者が担当した活動について紹介したので、ご批判、ご意見は是非大槻までお届け願いたい。また大学内での種々の役職はある程度の期間を経るたびに、変遷していくものであり、新たな担当の方に役割を委譲することによって、改善される部分も多いと感じている。

繰り返し記載してきたが、本学の特性、自主性あるいは独自性と、いくつかの連携事業や交流事業については、なかなか直達的に関連付け難いものも多い。大学連携に伴う単位互換制度などは典型的な例と捉えることが出来ると思われる。そして、医学教育・診療と医科学研究という本学の邁進すべき本来業務を遂行していく中で、しかし時には、立地地域に立脚した高等教育機関中でも医科ということで科学技術としての専門領域、あるいは国としても経済発展のために掲げている環境と健康、すなわちグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションは、後者は直接的に、また前者も筆頭著者が「公衆衛生、健康科学、予防医学」系の第4学年「医学・医療と社会ユニット」³⁷⁾の中で担当する環境保健あるいは地球環境と健康という観点からは十分に関連のあるテーマでもあり、こういった観点の中での本学の存在の意義やその担うべき役割について、国、県あるいは市域の中で考えてみることも必要なのかも知れない。

参考文献

- 1) 川崎医科大学ウェブサイト URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/med/>
- 2) 大槻剛巳, 毛利聡, 虫明基, 富田正文, 西村泰光, 松島眞浩, 川西礼美, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その1. 川崎医学会誌 一般教養篇 37: 31-46, 2011
- 3) 大槻剛巳, 小笠原泰夫, 柏原直樹, 佐藤稔, 大澤裕, 矢田豊隆, 毛利聡, 山内明, 武井直子, 前田恵, 西村泰光, 小野寺昇, 望月精一, 茅野功, 川西礼美, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その2. 川崎医学会誌 一般教養篇 37: 47-59, 2011
- 4) 岡山県ウェブサイト ようこそ知事室へ URL: <http://www.pref.okayama.jp/chijishitsu/>

- detail.html?col_id=670
- 5) おかやまメディカルイノベーションセンター
ウェブサイト URL; <https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/omic/index.html>
 - 6) 中国経済産業局ウェブサイト 平成23年度 中小企業支援ネットワーク強化事業について
URL; <http://www.chugoku.meti.go.jp/topics/chusho/110524.html>
 - 7) 中小企業庁ウェブサイト 経営サポート「地域力連携拠点」 URL; <http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/renkei/>
 - 8) 内閣府ウェブサイト 行政刷新 事業仕分け
URL; <http://www.cao.go.jp/gyouseisasshin/contents/01/shiwake.html>
 - 9) 岡山県産業振興財団ウェブサイト 岡山県産業支援ネットワーク 県中小企業支援センター事業 URL; http://www.optic.or.jp/nc/index.php?page_id=43
 - 10) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト
URL; <http://www.ocpic.jp/>
 - 11) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2009年度総会 URL; http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=16
 - 12) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2010年度総会 URL; http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=18
 - 13) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2011年度総会 URL; http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=22
 - 14) 映画『ウォー・ダンス/響け僕らの鼓動』公式ウェブサイト URL; <http://www.wardance-movie.com/>
 - 15) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2010年度国際貢献講演会 URL; http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=11
 - 16) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2010年度国際貢献講演会 http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=20
 - 17) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2010年度国際貢献講演会 http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=21
 - 18) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの場面2011 岡山発国際貢献推進協議会5周年記念イベント URL;
 - 19) 岡山発国際貢献推進協議会ウェブサイト 活動内容 2009年度備中地域打合せ会 URL; http://www.ocpic.jp/event/detail.php?id_report=13
 - 20) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの場面2008 Chen先生 URL; <http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2008/photo%2008/04/081225-2/081225chen.htm>
 - 21) 日本・ミャンマー医療人育成支援協会ウェブサイト URL; <http://www.mjcp.or.jp>
 - 22) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの場面2009 歓迎レセプション URL; <http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2009/photos/01/090117/090117.htm>
 - 23) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの場面2009 ふるさとの森 URL; <http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2009/photos/01/090326/090326.html>
 - 24) San San Htwe, Maeda M, Matsumoto R Saka moto N, Murakami S, Yamamoto S, Katoh M, Kumagai N, Hayashi H, Nishimura Y, Ohkura M, Wada H, Taniwaki M, Sugihara T, Otsuki T : Quick detection of overexpressed genes caused by myeloma-specific chromosomal translocation using multiplex RT-PCR. *Int J Mol Med.* 27: 789-794, 2011
 - 25) 倉敷市ウェブサイト 国際交流協会 URL; <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=3729>
 - 26) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの場面2010 倉敷市庁舎 URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2010/photos_ikutsuknobamen_2010/2/100603kurashikishi_cho/1006

- 03kurashiki.html
- カリキュラム URL; <http://www.kawasaki-m.ac.jp/med/outline/08.html>
- 27) にしゃんた official homepage ウェブサイト
URL; <http://nishan.jp/>
- 28) 医学教育振興財団ウェブサイト URL; <http://www.jmef.or.jp/>
- 29) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの
場面2011 welcome Party URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2011/ikutsuka_no_bamen_2011/110616%20UK-students/110616.html
- 30) 川崎医学会講演会ウェブサイト 第211回
URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/kouenkai/bk_syousai/no211.php
- 31) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの
場面2011 医学会講演会 URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2011/ikutsuka_no_bamen_2011/110707kawasaki_mmedical_society/110707.html
- 32) The International Federation of Medical
Students' Associations (IFMSA) ウェブサイ
ト URL; <http://www.ifmsa.org/>
- 33) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの
場面2009 Mr.Johannes Sets URL; <http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2009/photos/03/090820%20YS/090820.html>
- 34) 川崎医科大学衛生学ウェブサイト いくつかの
場面2011 歓迎会 URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/hygiene/2011/ikutsuka_no_bamen_2011/110819party/110819.html
- 35) 川崎医科大学英語版ウェブサイト Unique
Feature Exchange Program URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/med/en/unique/exchange_302.html
- 36) 川崎医科大学英語版ウェブサイト Unique
Feature Exchange Program URL; http://www.kawasaki-m.ac.jp/med/en/unique/exchange_303.html
- 37) 川崎医科大学ウェブサイト 大学概要